

平成27年 第1回 大和郡山市総合教育会議

① 開催日時

平成27年5月27日（水） 午後2時45分～午後3時30分

② 開催場所

大和郡山市役所 4階 404会議室（教育委員会室）

③ 出席者

上田清市長、石川泰弘教育委員長、藤本眞喜子教育委員長職務代行者、
福本宜男教育委員、三橋仁美教育委員、赤井繁夫教育長

以上6名

事務局12名

④ 傍聴人数

1名

⑤ 次第

1. 市長開会の挨拶
2. 出席者紹介
3. 意見交換
4. その他

⑥ 議事

○事務局 皆様おそろいですので、これより平成27年第1回大和郡山市総合教育会議を開催いたします。

私、総務部企画政策課の八木でございます。本日の会議の進行を務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、最初に上田市長より開会の挨拶をお願いいたします。

○上田市長 皆さん、こんにちは。

今日は暑くなり、昼から今年初めての光化学スモッグ注意報が発令されました。このような状況の中での初めての総合教育会議でございまして、これから大変お世話になります。よろしくお願いいたします。

本年度から教育委員会制度が大きく変わり、3つの変更点があります。市が総合教育会議を設置し市長が招集すること、教育に関する大綱を市長が策定すること、従来の教育委員長と教育長を一本化した新教育長を設置することが大きな柱です。

総合教育会議において、協議・調整を行う項目が3つあります。1つ目は教育行政の大綱の策定です。2つ目は教育の条件整備など重点的に講ずべき施策、3つ目は児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置です。

平成27年度は、大綱の策定について事務局が策定する素案をもとに、この会議の中で協議・調整を図っていく予定となっておりますので、よろしくお願いいたします。

後ほど、皆さんに、それぞれ御意見を出していただければと思います。私は常々わかりやすく心に響く大綱、大和郡山市としての背骨を支えるような大綱を皆さん方といろいろ意見を交換させていただきながら、作ることができればと思っています。よろしくお願いいたします。

○事務局 市長、ありがとうございました。

本日は第1回目ですので、総合教育会議の出席者の皆様の御紹介をいたします。

上田市長でございます。教育委員長の石川委員長でございます。教育委員長職務代行者の藤本委員でございます。教育委員の福本委員でございます。教育委員の三橋委員でございます。教育長の赤井教育長でございます。

次に、事務局の紹介をさせていただきます。

総務部長の西尾でございます。私、企画政策課長の八木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、次第3の意見交換でございます。本日、最初の総合教育会議ですので、市長、教育委員の皆様から御意見をいただきまして、意見交換会を行いたいと思います。

御意見等、よろしくお願いいたします。

市長、お願いします。

○上田市長 先ほど申し上げたように、子供たちの心にも響くような教育大綱でありたいと思っています。教育は結局人づくりだと思っておりますが、時代と密接な関係があつて、

かつて明治以降は遅刻するなどが、集団行動をしっかりとせよと、結局会社で役に立つ、社会で役に立つのが大きな方針で、これが経済成長を支えてきた部分です。今、経済成長の時代と少し時代が変わってきている中で、私たち自身が従来の経済成長時代の発想を抜け切れていないのではと思います。

私は、かつて教育現場におりました。そのため、よく教育のプロと言われますが、私は教育にプロはいないと思っています。教育の専門家はどこにもいない、みんなが人生の先輩として、後輩に教えていく。今は特に時代の変化が大きくて、その中で子供たちに何を知ってほしいのかを取り上げ、大事なことを伝えていければと思います。

例えば、経済的に豊かになることだけでいいのかということも思いますし、心の問題も含めて、そういう部分の問いかけも必要であります。「昔はよかった」では、子供は育ちません。今日お集まりいただいた委員の方々は色々な分野の専門家でありますので、そうした経験から得られた考えを聞かせていただいて、御議論させていただければと思います。

もう一つだけ言いますと、規範意識の向上、これも難しい問題です。昔はよく背中を見て育つと言いましたけど、子供たちの規範意識を問う前に、大人の規範意識を向上させなければいけない時代を迎えているように思います。

○事務局 ほかに、御意見等ございましたら、お願いします。

○三橋委員 現代は若い人たちの意識がどんどん変わっていく時代で、環境の変化も著しいと思います。インターネットや画面を通じた情報は、私たちよりも子供たちの方がずっと得意ですので、色々な機器を教育の現場に組み込んでいくような時代になっていくのではないかと思います。

あと、グローバル化が進み、日本の国だけではやっていけない面もありますので、社会へ出たときに外国人の方と友好を深めていけるような子供たちを育てていくために、教育の現場も変わってくるだろうと思います。

不安な点としては、携帯やスマホが子供たちの心をむしばみ、それらに関わる時間が多いために、お友達と遊ぶ時間や家族と会話する時間が減ってしまっていることです。大変残念なことだと思うので、昔のことを全部否定するのではなく、読書や習字やそろばんなども日本の大事な伝統ある習慣であり、勉強のツールだと思うので、そういった面も教育の場にどんどん取り入れて、新旧の良いところを組み合わせた教育を、大和郡山市独自のすばらしい指針を立てていただけたらなと、そういった期待という

か希望を持っております。

○事務局 頂きました御意見を参考にして、大綱作成に生かしていきたいと思います。

ほかに、御意見等ございませんでしょうか。

○福本委員 教育委員会制度の見直しもありますので、その部分の話し合いや、教育は範囲がすごく広いですし、戦後70年が経ち原点に戻るといふか、色々な意味での見直しが必要になってくるのではないかと思います。

大和郡山市の学校へ行かせてやりたいな、大和郡山市に移りたいなというような何かができるのであれば、そんなことも一緒に考え、大綱に盛り込めたらと思います。すぐにできる分野と、これから何年もかけて変えていかなければならない分野、その辺の方針を見直していくべきではないかなという気がしました。

○事務局 ありがとうございます。

○藤本委員 私、総合教育会議に大変期待をしております。それとともに、奈良県全体の教育に関して大きな危機感というか、このままでいいのかなと思いつつながら教育委員会に所属させていただき、今日まで過ごしてしまっている自責の念もあります。

時代はどんどん変わって、なおかつ日本の国力が非常に衰退している中で、日本人が持っている一番大きなものは、やはり人材です。その人材を担うところは教育であるわけですから、そのところをもう少し私たちの手で、手近なところから進めていき、問題を改善していく必要があると思います。

奈良県の現状を見ていきますと、例えば一番気がかりなところは全国学力テストです。小学生であれば47都道府県の中で、一昨年が46位、昨年が43位という本当に深刻な状況です。中学生の場合も、一昨年が47位で、昨年は46位。子供たちが学校の中で学習意欲を保持しているのかどうか。決まりを守るとか、学習の習慣であるとか、生活の習慣であるとか、そういうことが連動している状況にあると思います。

また学力の低下も問題ですが、学力格差が今の和歌山でも、大きな問題になっているのだと思います。

例えば学習意欲の面だけをみると、2時間以上学習している小学生は奈良県が全国でトップクラスだそうです。だけど、30分以内や全くしない小学生が非常にたくさんいる状況です。中学生の場合も、同じような二極化が進んでいるのが非常に問題になるのではないかと思います。

現状を、しっかりと見直して、どこに問題点があるのかを私たちも真摯に受けとめて、

そこから改めていく必要があるかと思えます。

奈良県は、例えばピアノ普及率が日本一だし、パソコン普及率も高い。データの的には学習に対する熱心さは、親の方もたくさん持っておられると思えます。ですので、現状の中でそれが阻害されている部分を、見極める必要があるかと思っています。

学力の格差が二極化していることと、地域によって子供たちの人数にも格差ができていて実感いたします。特に、矢田小学校は子供の数が5分の1に、平和小学校は3分の1になったというお話をよく聞きます。

市内では、現状維持という学校もあるのですが、その中で親から子、子から孫へという世代交代ができていない現状や、就業できる場所が大和郡山市には少ないことも大きな問題だと思えます。

まだ考えがまとまらないのですが、また皆さんの話をお伺いしながら、御意見差し上げたいと思えます。

○事務局 ありがとうございます。

○石川委員長 昨日、学校にも行かせてもらいましたが、市の方々も努力して人員を増やされていますが、どうしても学校の先生の負担が非常に大きいという現状があります。

昨日の話では、家に帰る時間が非常に遅くなるということもお伺いしています。このような部分がある程度整備していくことも非常に重要なのかなと思えます。また、学校の先生だけに頼っていてもなかなか難しいと思えますので、学校と家庭が一緒になって子供を育てていくことが重要だと考えています。

僕も、中学生、小学生、幼稚園児と3人の子供がいるのですが、なるべく家では子供たちの話を聞くようにしており、学校での話も聞くようにしています。たまには、学校でこんなことがあったとか、先生からこんなことを言われたとか、愚痴も聞きます。でも、それは先生が何らかの意味があってそうしたはずであるという話をするようにしており、なぜそう言われたのか、考える力も養っていかないといけないと思えます。学校でも当然そういった教育が必要ですし、家庭でもそういうものが必要になると思えます。

結局、学校で学力、体力や心を育てることを一生懸命やっても、家に帰ってから全然違うようなことをしていたら、子供も迷ってうまくいかないのではと考えていますので、学校も家庭も同じ方向を向いて子供を育てていく部分が増えれば、良くなっていくのではと思えます。

とてもいい教育目標として、知・徳・体というものがありますので、そこをより具体的にわかりやすく、例を挙げたりして、家庭でも取り組んでいき、大和郡山市独自のものをつくることができれば一番いいのかなと思います。

色々な意見を聞いて、また僕もその意見に対して、子供を持つ親の立場からお話できればと思っていますので、よろしくお願いします。

○事務局 ありがとうございます。

○赤井教育長 教育とは、教え育てるという、その視点だけを見ると、どうしても学校教育が中心になりがちなところがありますが、人が生まれてから死ぬまでの一生という視点で見ていく必要があると思います。家庭教育、学校教育、社会教育、人は生まれてからずっと学んでいく、周囲からも色々なものを学んでいく。周囲の人から教えられるのも学びの1つの形態でしょうし、そういう中で大和郡山市に生まれて、育て、年を取って行って、よかったなと思える学びの場が、あちこちにあつたらすばらしいなという気がします。

古事記1300年の時に、本市のいわゆるスローガン、「人間ってすごいじゃないか」というのがあったと思います。年齢や学ぶ場所ごとに人間のすばらしさを感じていければいいなと思います。ただ単に、学校教育に特化してしまうのは、小さくなりすぎるのではないかという気がします。

今年度の校園長会の第1回目のときに校長先生、園長先生方に申し上げたのは、1つは地域の将来を担う子供を育てて欲しい、そのために、自分が住んでいる地域の歴史や文化などを子どもたちが知るようにしてもらいたいと。2つめは地域の人々とのつながりを大事にして欲しい、本市にもスポーツや文化など自分を豊かにする場は色々ありますが、そこに積極的に参加することで、地域をますます活性化させていくことにも協力してもらいたいと申し上げました。

教育による地方創生の元年という認識が要るのではないかなと思いますし、大綱も大きな視点が必要かなと思います。

○藤本委員 スクール・コミュニティという言葉があるのですが、これは様々な人々に囲まれて、学校の中で色々なことをする、要するに地域の中心に学校がある体制です。地域のコミュニティの中心が学校であるという形をとり、少子化の問題、高齢者の問題、空き家問題、空き教室がたくさんある問題などに対して、発想の転換を図り、問題点を利用しながら、なおかつ交流も行い、子供たちを育てていくことができます。

また、子育て世代の保護者の方たちの立場を考えると、経済的な負担の問題もあると思います。今、国が進めている幼保連携の中で、幼保の無償化を必要な方から順番にしていくという施策を進めていくのも一つかと思います。例えばフランスを見てみると、国の施策の第1が子供の教育です。子供を中心に子育て世代のお母さんが自由に働けるような環境の整備もしています。教育に関する必要な部分に関しては国が無償化を図っており、結婚して、子供を産んで、人口が増えていく大きな柱となっている、そういう政策をしっかりと持って、子供を産み育てやすくするような部分にも目を向けたいと思います。

先ほど申しました学力格差の問題に関しては、一番大事なのは3歳、4歳、5歳の教育をしっかりとやっていくことによって、将来的に格差の是正にもつながっていくのではと考えています。特に幼保連携をしながら、無償化することにより経済格差も少なくなっていくという方向性が出てくるのではないかと思います。

少子高齢化のため大和郡山市もどんどん人口が減ってきています。10年間のデータを見ますと、小学生・中学生も減少していますが、一番減っているのは幼稚園児です。10年間で4分の1に園児数が減っています。これからも減っていくことを念頭に置いて、現状も大事であります。5年、10年、20年先を読んで、しっかりとの方針を立てながら、目標に向かって進んでいく大綱であるべきだと思います。

いろいろ雑多なお話をしてしまい、恐縮でございます。

○事務局 ほかに御意見等ございませんでしょうか。

○石川委員長 僕は、子供が3人いますけど、子育てしていく中で一番困った部分が、安心して遊べる場所が少ないところです。それぞれの地域に小さな公園や大きな公園だと九条公園があるのですが、だんだんと物足りなくなってくるらしいです。県内であれば竹取公園とかによく行くのですが、一番子供たちが楽しいというのは、東大阪のドリーム21です。あそこは何度でも行きたがります。色々なアスレチックシステムもあり、入場料を1人100円払うと雨でも遊べる場所があったりするんです。そういった公園をつくれればいいという意味ではなく、そういう場所があれば、もっと外に出て遊ぶことにつながり、長期的には体力の向上にもつながるのではないかと思います。

子どもを外で走らせることもよくしているので、三の丸公園とかも走っていますが、だんだん飽きてくるみたいです。そこで、どこへ行くかと言うと、東大阪のドリーム21か堺のビッグバンで、ものすごく行きたがります。大和郡山市にも特徴を生かした

そういった場所があれば、他の市からも来てくれるだろうし、小さな子どもやお母さんも、そこで遊んでもらうことができれば子育てをしやすいかなど思ったりしています。

○藤本委員 小学校の中では、治道が生徒数は少なく、6学年あるべきところが5学年しかないというこの地域の現状があります。

それをどう解決していくのかということですが、小学校とか幼稚園も地域に根差した学校なので、統廃合はできるならば避けてもらいたいです。それならば、小・中一貫という形をとってほしいです。

要するに、小・中学校という義務教育学校の形をとっていくことも1つの方法ではあると思います。メリットとしては、1つの教職員グループが1年生から9年生までを担当し、よく言われることですが、中1ギャップも解消されます。あるいは小学校でも教科担任制ができたり、専門の先生方に教えてもらえるとか、そういうメリットもたくさんあると思っています。

教育の中で大事な部分だと思っているのですが、小学校から9年間、教育スタイルとか学習スタイルを一貫してもたせていくことも、子供にとって学力をつけていく1つの大きな方法だと思います。学習スタイルを1つ確立することによって、子供たちが自主的に学んでいくという方向性が出ていくことも考えられるかなと思っています。

ただ、小・中一貫校の様々なデータを見てみると、必ずしも大きな効果があったという結果が出ていない部分もありましたので、この辺りは検証する必要があるだろうと思います。

○事務局 ほかに、御意見等ございませんでしょうか。

○福本委員 大綱を策定するにあたり、いつも市長がおっしゃっている歴史に学ぶという点から何かできないかなと思います。日本にはすばらしい歴史があって、偉人がおられます。道徳の教科化も踏まえた、どのような形で学びながら人間教育をしていくかという点を考えていきたいです。

もう一つ、郡山の歴史も重要で、すばらしい歴史の数々は、数え上げたら切りがないと思います。歴史に学ぶという方向性も、検討していただけたらと思います。

○事務局 ほかに、ございませんでしょうか。

ないようですので、それでは、最後に、市長より総括をお願いします。

○上田市長 先ほど、経済成長時代の発想から抜けきれていないのではないかと申し上げたのですが、これは教育の分野だけではなく、全ての分野に当てはまると思います。その結果、行われているのが、何かあったら、すぐ「ばんそうこう」を張りに行くような対処療法ばかりです。

例えば学校では、見知らぬ人にはついていくなと言いながら、一方では誰とでも仲良くしようというような矛盾することを言っているわけです。その背景にあるのは、何か事が起こったら責任を取らされるので、取られないようにしておこうという流れです。今、その流れが日本全体を覆っており、責任逃れの体制が充満しています。それが大きな視野を奪っているのだと思います。

みんなが、責任を取らされるのが怖くて、責任を回避しようとする。逆に悪いことをした人間に対してきつい攻撃をする、インターネットでもそうですね。自分が攻撃される前に、他の人に責任を持っていこうとする。

また、大人は無責任に、子供たちに夢を持とうと言いますが、具体的な夢の中身は何も言わない。夢というのは、具体的な中身があってこそその夢です。夢を持とうと言ったって、「どのようにすればいいのか」と子供たちからたずねられたら、何も答えられない。

ほかには、人間はおかげさまで生きている、人の支えの上に立って生きていると思います。色々な社会に、色々な人間がいることをもっと知らなければいけない。色々な体験を子供たちに伝えていくことが大事です。

例えば高層ビルを建てるためには色々な職業の人が関わり、とび職の人だけではビルは建たないわけです。ところが、そういうことを教わる場所がない。そういうことを伝えることによって、やる気や憧れが起こる。無理やり学力を上げることは可能かもしれないけど、そうではなくてモチベーションを上げていく、そういうことを大事にしたいなと思います。

地方創生という言葉があります。私たち自身に夢と誇りと自信がなければ、地方が元気にはなりません。いくらお金をつぎ込んでも地方は元気にならないです。

夏にラジオ体操の講習があるのですが、子供たちが苦手なマットと跳び箱と鉄棒の講習に3日間通ってきます。親御さんがついてきていますが皆さん座っているだけなので、ラジオ体操を始めるときに「親御さんもやって」と、いつも言います。子供と一緒に大人も動く、それが背中で教えるということだと思ふんです。

冒頭に大人の規範意識の話を申し上げましたが、大人の生き方が問われていると思います。

そういうことで、大綱は大和郡山市民全員のもので、大人も含めて、みんなが共感を持てるようなものでないと、絵に描いた餅になるのではないかなと思います。

いずれにしても郡山モデルとなるような、いい大綱をつくるために、皆様方、これからもお力添えをいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○事務局 ありがとうございます。

それでは、これで意見交換を終わらせていただきます。

最後に、次第4のその他ですが、今後のスケジュール等につきまして、事務局から御説明させていただきます。

本日、委員の皆様からいただきました貴重な御意見を参考にさせていただきまして、まず、教育大綱の素案を事務局でつくらせていただきます。次回、その素案を委員の皆様で御検討いただいて、教育大綱として仕上げていきたいと思っております。

次回の会議については、教育大綱の素案や教育関係の予算などを主な議題といたしまして、秋の予算編成の時期頃を開催させていただく予定でございます。具体的な日程は、改めて事務局から御連絡申し上げます。

以上をもちまして、本日の会議事項は全て終了いたしました。これにて閉会いたします。

どうも、ありがとうございます。